

§ 2. 業務対象地(小値賀町)の概況

(1) 自然状況

【気象】

冬期には、季節風の影響を受けて降水量が多く、降雪が見られることがあるものの、一年を通じて対馬海流の影響を受けるため温暖である。

【地形・地質】

尖閣諸島から五島列島に続く東シナ海大陸棚外縁部の隆起沈降帯の北端にあたるが、野崎島以外の島々では、五島列島の傾動性地盤とは異なり、小値賀火山群と呼ばれ、新しい地質時代の火山噴出物から構成され、海底に土台を持つ玄武岩の溶岩台地の一部が海上に現れて島嶼群を形成している。野崎島は、五島列島の中通島と地質構成が近く、流紋岩質の火碎流堆積層となっており、東岸の一部に玄武岩質火山の火口壁が観察される。

【植物】

小値賀本島や斑島では、クロマツ群落が優占しており、海岸に面した溶岩台地上には、牧草地が広がっている。野崎島は、タブなどが優占する常緑広葉樹林となっている。小値賀本島の西に浮かぶ美郎島(国立公園第1種特別地域)では、ダルマギク群落、ハチジョウススキ、ハマトラノオ群落、ハイビャクシン群落など自然度の高い植生が観察できる。

【動物】

全域にカラスバト、オオミズナギドリ、ウチヤマセンニユウ、ウミウが生息している。また、野崎島は、五島列島で最もキュウシュウジカの高密度生息地となっており、同島の野首海岸は、アカウミガメの産卵地となっている。



野崎島のキュウシュウジカ



小値賀の西に浮かぶ火山群島(無人島)